

【第2分科会】提案（A） よりよく生きようとする意思や能力を育む道德教育の充実
～C Sの仕組みを活用した社会に開かれた教育課程の推進を通して～

[助言者]	広島県東部教育事務所	所長	奥田	米穂
[発表者]	府中市府中明郷学園	校長	大川	幸雄
[司会者]	府中市上下中学校	校長	高本	智義
[運営委員]	東広島市高屋中学校	校長	豊崎	真理子
[記録者]	東広島市河内中学校	校長	仙立	勝義

1 はじめに

現代社会は、少子高齢化、情報化、価値観の多様化など、急激な変化の中にある。こうした社会を生きる児童生徒には、他者と協働しながら主体的に課題を解決し、よりよく生きようとする意思や能力がこれまで以上に求められている。その基盤となるのが道德教育であるとする。

学習指導要領においても、道德教育では「よりよく生きるための基盤となる道德性を養う」ことを目標としており、そのために、特別の教科 道德（以下、道德科）において、児童生徒が道德的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、生き方についての考えを深める学習を通して、道德的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることが重視されている。

道德性は、学校だけでなく、家庭や地域社会との連携の中で、実生活と結び付けながら継続的に育まれていくことが重要である。特に、児童生徒が学んだ道德的価値を日常生活の中で実感し、実践へとつなげていくためには、学校、保護者、地域が共通理解を深め、相互の連携を図ることが不可欠であるとする。

こうした背景を踏まえ、本実践研究では、コミュニティ・スクール（以下、C S）の仕組みを活用し、「社会に開かれた教育課程」の推進を通して道德教育の充実を図ることとした。

2 地域、学校の状況

府中市は、広島県の東部の内陸部に位置する人口約3万5千人のまちである。その昔、備後国府が置かれた歴史文化都市であり、現在は、金属、機械器具、味噌、家具・木製品など全国に誇る「ものづくりのまち」として知られている。

府中市は、平成29年度に市内全校を義務教育学校及び併設型小・中学校に移行することで、小中一貫教科の創設が可能となる学校教育体制を整備した。時期を同じくして、平成26年度から6年の時間をかけて、市内全校に順次、C Sを設置し、学校、保護者、地域で「育てたい子供像」を共有し、三者が一体となって将来の地元の若者を育むことが可能となる取組を進めている。現在、小学校6校、中学校2校、義務教育学校2校、全ての学校で小中一貫教育とC Sを一体的に推進している。

本校は、平成22年度から府中明郷小学校と府中明郷中学校が小中施設一体型の校舎で学

ぶ小中一貫校として学びを進め、平成 26 年度、府中市で初めての C S となった。平成 29 年度からは、1 年生から 9 年生までの児童生徒が同じ校舎で共に学ぶ義務教育学校となり、「自律」を学校教育目標に掲げ、社会に開かれた教育課程の推進を通して、自ら考え、判断し、行動できる児童生徒の育成を目指している。

3 実践研究の概要

校長として、C S の仕組みを活用し、教職員だけでなく、様々な立場や年齢層の方々が学校に集い、交流しながら学びの空間と時間を創り出し、人や社会とのつながりを重視した地域とともにある学校を目指している。また、義務教育学校としてのメリットを最大限に生かし、9 年間の連続性の中で児童生徒がよりよく生きようとする意思や態度を育むため、学校の教育活動全体を通じて、道德教育の充実を図っていききたいと考えている。

本実践研究では、C S の仕組みを活用した社会に開かれた教育課程の推進を通して、児童生徒の道徳的実践意欲や態度に効果的に影響を与えることをねらいとした。また、教職員が一体となって教育活動を推進できるよう、組織体制の整備と取組を充実させるための学校経営の在り方について、整理していくこととした。

検証方法としては、道德科の内容項目にある「主として人との関わりに関すること」、「主として集団や社会との関わりに関すること」に係るアンケート調査を実施し、児童生徒の意識や行動がどのように変容したかを見取る。

4 取組の実際

(1) 道德科における授業実践

道德科の授業では、地域の方の体験談や生き方を教材として取り上げたり、ゲストティーチャーとして授業に参画してもらったりするなど、児童生徒が社会とのつながりを実感できる授業を実施した。9 月には、保護者や地域の方々に本校の道德教育の取組を知っていただくために、学園全体で道德参観日を実施し、その後、学級懇談を行った。一部を紹介する。



写真 1 :

(5 年生) 元なでしこ JAPAN 山根恵理奈さん「好きなことを続けることの大切さ」の講話。[個性の伸長]

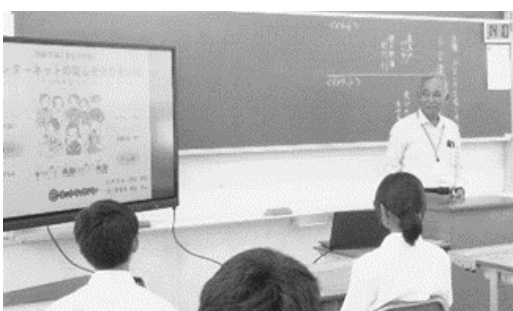


写真 2 :

(7 年生) ICT 支援員 高山裕之さん「インターネットの安心安全な使い方」の講話。[相互理解、寛容]



写真 3 :

(8年生) 担任の母親「担任の子供の頃のエピソードや親の気持ちについて」の講話。[家族愛、家庭生活の充実]

(2) 総合的な学習の時間における授業実践

これまで本校に関わってきた教職員の努力とCSの継続的な支援のおかげで、ある程度、学校は、保護者、地域・産業界とつながることができている。社会に開かれた教育課程の推進は、校長が異動しても持続可能な取組にすることが重要である。

そのために、特に意識して取り組んでいることは、主に次の2つである。

1つ目は、児童生徒に目指す資質・能力を伝え、どのように育成したいかを考えさせ、その結果を学校、保護者、地域・産業界と共有することである。

2つ目は、児童生徒の学ぶことによって成長した姿を、保護者、地域・産業界等、学習に関わった全ての方々と共有することである。伝える手段として、学園便り、学級通信、ホームページ、公式LINE等がある。また、積極的に報道機関等へ情報提供を行い、新聞、地元の情報誌等のメディアへ掲載してもらっている。

これら2つのことを意識して取り組むことは、学びの効果を高めることにもつながっていると考えている。取組の一部を紹介する。

【明郷響命祭（9年生）】

9年生は、これまでの総合的な学習の時間で学んだことを生かし、自分たちで企画・運営をするイベントを企画した。目的は、地域の方々への感謝の気持ちを伝えるために地域の方々に笑顔になって楽しんでもらうこと。これまでの学習活動で、色々な人と話すコミュニケーション力や、協力して1つのものを作り上げる力等を身に付けてきた生徒が、「成長した自分達の姿を保護者や地域の方々にも知っていただきたい。」とこのイベントを企画した。「明郷響命祭」という名称は、9年生が考案した。「みんなの命を響かせて、感動させたい。」という思いが込められている。

まず、生徒の実行委員会からCSでイベントの趣旨説明と内容の提案を行った。PTA会長に屋台と商品搬入の協力を依頼し了承を得た。計画途中、意見がまとまらず、暗礁に乗り上げる場面もあったが、教員は手を出さず見守り続けた。

すると、ある生徒から「目的に立ち返ってみないか。」と意見が出され、合意形成を図る一幕も見られた。イベント当日は、たくさんの保護者、地域の方々が来場した。イベント会場には段ボール迷路、○×ゲームを始めとした、5つのゲームコーナー、ビンゴ大会、飲食ブースも設けられた。9年生は、イベント企画、案内チラシ作成、物品注文、会計等も全て自

分たちで行った。多少のトラブルはあったが、イベントの最後には、9年生から地域の方々に対してこれまでの感謝の気持ちも伝えることができた。会場は笑顔にあふれ、所期の目的は達成し、成功裏に終わった。

【地域なかよし感謝祭】

本校のCSには、「学習支援部会」、「地域活動部会」、「環境安全部会」の3部会がある。それぞれの部会で、児童生徒に身に付けさせたい力を共有し、地域の教育資源を教育課程にどう位置付けるか、いかに社会に開かれた教育課程を推進するかを考え、熟議し、学校経営を支えている。「地域活動部会」は、地域行事への子供達のかかわり方を協議している。月1回、会長、副会長（各部長）、学校管理職が集合して、各部の活動状況や学校の課題等を共有し協議するCSの企画運営委員会を開催している。その中で、現在の学校と地域との関わり方について次のような意見が出された。「小中学校の統廃合から数年が経過し、模擬会社など学園としての取組は全国的に知られるようになった。その一方で、地域からは子供達の姿が見えないという声も聞く。今一度、足元である地域との関わり方を見直してはどうか。」というものである。

その後、学校で協議し、地域の方々に本校の教育について理解していただき、児童生徒の主体性を育む視点からも、統合直後に各地域で行っていた取組を児童生徒の主体的な参画という形で復活させることが決まった。

〔「地域なかよし感謝祭」開催までの流れ〕

- ① 目的の共有（教職員・CS）
- ② 教職員プロジェクトチーム結成
- ③ CSで生徒代表がインタビュー
- ④ 児童生徒実行委員会結成
- ⑤ 公民館長と打合せ、開催

まず、模擬会社を経営している8年生が「自分達が地域のために何かできることはないか。」と地域の方々の生の声を聴いてみようとしてCSへ参加し、インタビューを行った。地域の方からは、「学校がなくなって地域で子供の姿を見ることが少なくなった。どこにどんな子がいるのかも分からない。さみしい。交流の場があれば嬉しい。」等の意見や感想が出された。

その声を受けた8年生は、総合的な学習の時間に「地域活性化プロジェクト」を計画している6年生に伝えた。そして、8年生から6年生に、地域の方々からの要望を何とか実現してもらえないかと依頼し、児童生徒実行委員会を結成した。6年生は、地域を5つのエリアに分け、地域住民と1年生から9年生までの児童生徒が交流し、世代を超えて楽しめる活動を目指して、企画の立案から運営・実行までを主体的に行った。

5 検証結果

道徳的価値に関するアンケート（R7.12月実施 5～9年生 計125名回答）「4月のあなたと比べて、今現在、あなたの意識・行動がどのように変化したかを教えてください。ま

た、きっかけとなった授業・行事と理由を教えてください。」の回答結果

①肯定的回答の割合

②きっかけとなった授業・行事の上位4つ

③主な理由

【結果1】

質問Ⅰ：思いやりの心をもって人と接することができるようになった。

「主として人との関わりに関すること」[思いやり、感謝]

①90.4%

②文化祭 51.2%、体育祭 47.2%、総合的な学習の時間 40.8%、地域なかよし感謝祭 40.8%

③他の人と協力したり、話し合ったりする機会が多かったから。いろいろな人と関わる機会が多くあったから。色んな人が気持ちよく過ごせる行事を企画することができたから。

【結果2】

質問Ⅱ：時と場に応じた適切な言動を取ることができるようになった。

「主として人との関わりに関すること」[礼儀]

①84%

②文化祭 40.8%、地域なかよし感謝祭 40.8%、キャリア体験学習 30.4%、総合的な学習の時間 28.8%

③地域の人たちや企業の人たちなど大人の人たちと関わったりする機会が多かったから。みんなの前で話したり、指示を出したりする場面が多かったから言葉選びに気を付けた。

【結果3】

質問Ⅲ：友達とお互いに励まし合い、高め合うことができるようになった。

「主として人との関わりに関すること」[友情、信頼]

①86.4%

②文化祭 58.4%、体育祭 56%、マラソン大会 40.8%、明郷タイム 31.2%

③たくさん失敗もしたけど、仲間と協力することで達成感や感動などが感じられたから。友達と協力し合うような行事が増えて、励まし合ったりすることも増えたから。

【結果4】

質問Ⅳ：自分は、地域（社会）のために貢献したい意識が高まってきた。

「主として集団や社会との関わりに関すること」[勤労]

①69.6%

②地域なかよし感謝祭 49.6%、総合的な学習の時間 29.6%、明郷響命祭 25.6%、キャリア体験学習 23.2%

③地域の方々にたくさんお世話になっているから。明郷響命祭を通して今まで支えてくださった方に恩返しができ、地域の人が「ありがとう。」と言ってくれたのが嬉しかったから。

6 成果と課題

(1) 道徳的価値に関するアンケートから

アンケート結果によると、「主として人との関わりに関する質問」において、結果1～3では、肯定的な回答が8割を超えていた。肯定的な変容のきっかけとなった授業としては、総合的な学習の時間が多く挙げられ、学校行事では体育祭、文化祭、マラソン大会が上位を占めていた。学年の枠を超えた集団活動や体験的な活動は、道徳的な実践の指導を行う重要な機会や場となっている。児童生徒が他者との関わりを通して、よりよい人間関係を築くための道徳性を身に付けていく上で、大きな役割を果たしていると言える。

一方、「主として集団や社会との関わりに関する質問」において、結果4では、肯定的な回答が7割に達していない。総合的な学習の時間では、児童生徒が地域について考える機会を設定し、活動内容を自ら構想させることで、主体的に取り組む態度の高まりが見られている。また、授業以外においても地域行事に参加する児童生徒は多い。しかしながら、こうした経験が、地域や社会に貢献しようとする意欲の一層の向上には十分につながっていない。この点は、学習活動と社会貢献意識とをより効果的に結び付ける指導の在り方として、今後の課題である。

(2) 学校経営の在り方について

本校全体に関わる取組については、教職員によるプロジェクトチームを結成し推進することで、前期課程と後期課程、若手とベテラン関係なく、主体的な教育活動の推進につながった。また、学校教育目標や目指す子供像、育成したい資質・能力を学校、保護者、地域・産業界で共有することが、学校教育活動の一貫性と持続性を支える重要な基盤であることを再確認した。

7 おわりに

本実践研究を通して、CSの仕組みを活用した社会に開かれた教育課程の推進は、児童生徒のよりよく生きようとする意思や能力を育む道徳教育の充実に有効であることが明らかになった。

『人は人を浴びて人になる。』という言葉が示すように、児童生徒の人格形成は、多様な他者との関わりの中で育まれる。教職員においても、協働し学び合う取組を通して、学校全体としての教育力を高めていくことが重要である。

今後は、学校、保護者、地域・産業界が一体となった教育活動をさらに推進し、道徳教育の充実とともに、持続可能で効果的な学校経営の在り方について継続的に検討していきたい。